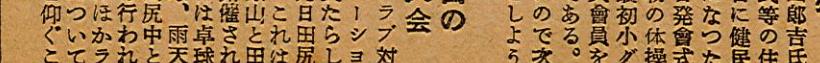
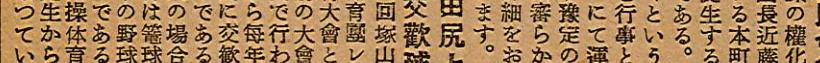
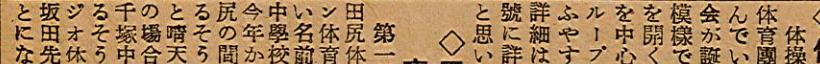
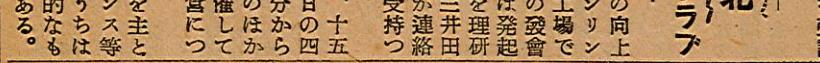
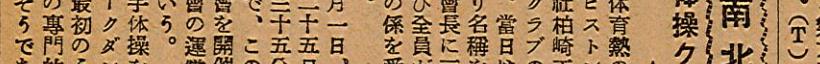
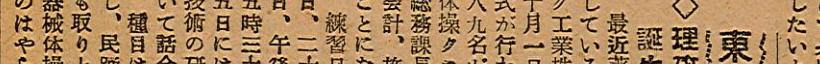
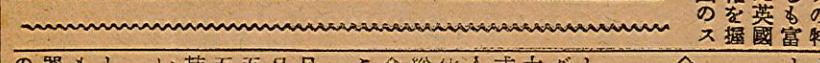
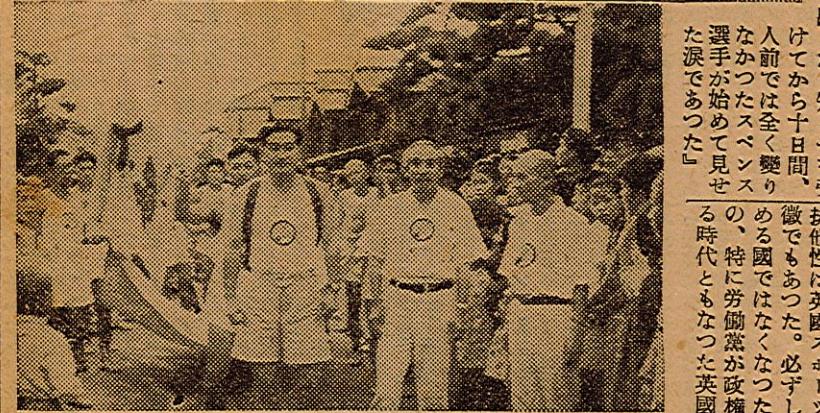
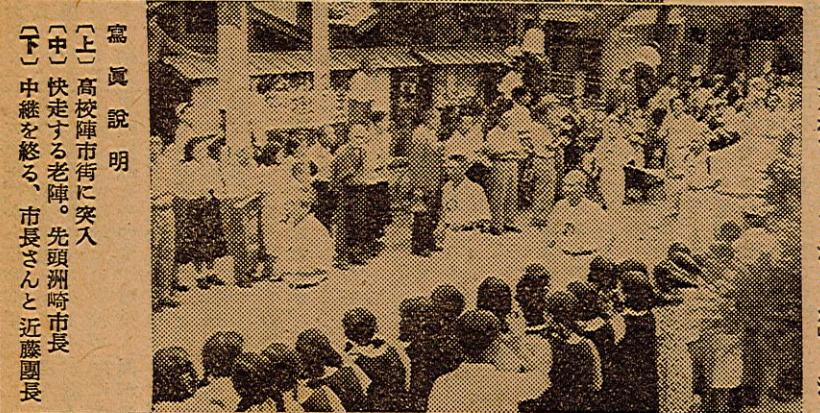


柏崎体育

晴の十九代表決まる

國体に駒進める柏崎刈羽選手

陸上競技
射撃競技
柔道庭球
自転車競技
国体追抜
卷淵晃
百キロ、一万米、四千米



柏崎陸上競技場

建設の精神 (内)

洲崎様と相抱えて泣く

傍て、幾多の波瀾曲折はあつたものの、大運動場も兎に角建設の運びとなり、大正十二年の春早々事務局は刈羽郡役所に置かれ、藤田郡書記が事務專任となつた。一方その工事の請負者はあるが、私の考へでは、工事は精密を要するものであり、限られた費用で、うんと立派なグラウンドを作りたい。それには、利益でもしてやつて與れ、も信頼の出来る立派な請負師を選びたい。幸いに私の親友であり、義侠心の高い植木さんがあるので、脱いで戴きたいと考えたのである。植木さんも、當時尙父が健全で在られ「よし、君の爲に、そして運動場の爲に一肌も二肌も力をしてやるよ。」と力瘤を入れて呉れたのであつたが見よと言ひ立派なグラウンドにしてやるよ。そしてこれも腰が弱くて、入札とき川合さんに落札したのである。

愈々工事に着手し、近郷近在から男女の人夫が勤員されて賑やかにやつて居るもの、トロッコを持たぬもので、女人夫の背で、籠の底へちょびり砂を入れてベラ～世間の噂かなんかをしやべり乍ら、大砂山の砂を運ぶのであるから、幾日やつても減り目が見えない。気短かの私は肝の焼けることおびだしい。毎日／＼川合さんにガシガシと文句を申上げるので、後日川合様に限った事ではない。苟しくも私は、連日授業の終了をまづた事で、私の仕事をやつたことは、沙翁の齊となる事である。省みて誠に申訳が日課だつた。久内氏は一ない氣で一杯である。話は後へ戻つて、二功期日が迫つても工事は仲々進

ます。百投をモットーとしておられた人だけに陽のある中は、たゞ投げて投げ續けられた。即ち、初秋の校庭はラグ

球場に並んで待つて居て、お出でになり、此の様子を見て居られた洲崎様である。田中の青年會に出動を依頼された。一方その工事の請負は、田中の青年會に出動を依頼された。大正十二年の春早々事務局

坂田四郎吉

幾度も／＼私の許へやつて來ては、「有難い、有難い」と感嘆詞を連呼して居ら

れた。此の日朝から、工事場に

参り、

中崎石青年會は第一回奉仕

隊として各部屋から集つた三千名、義笠姿で鍵を肩に

中澤會長を先頭と

驛通りを行進し、

柏崎工事場に至つた。三班に分

れて、田中の青年を第四班と

して仕事にかかつた。四十

名の青年が、各班競争的に

工作にかかつた。皆硬直した不動の姿勢であ

る。瞬間。

渡されたが何の發言もなく

列横隊に並んで待つて居て

案内して行つた。青年は二

年の前に立つて、横隊を見

て、二人がしばし、そのま

ど動きない。それでも又元

氣をとりもどして、ベンツ

の位置にあつた)へ私が御

見えた。どこか日陰を選

て、二人がしばし、そのま

で休んでいるのかと、工

事場に出て見ると、ピック

ー・カレッヂには代表選手に

選ばれ三十六米余りで第六

位に入賞し得た。これに力

を得て二年生になつたその

年の冬の練習は、一層熾烈

な意欲と斗志に溢れたもの

であつて、翌年が明けて三年に

なつた初夏、スアンゼルス

大會の最終豫選には、多く

の先輩旧人を抑え、四〇メ

三寸をはじめとして五尺八

メートルで板橋氏について第二

位を獲得した。

明大の高野氏(佐渡中出

身)の六尺四寸、慶大の齋

藤氏(新潟出身)の六尺

三寸をはじめとして五尺八

メートルで坂橋氏について第二

位を獲得した。

大正八年、四十四

歳で四十一米二七を投げ絶

対の自信を以て最終豫選に

五は雨中での私の最高記録

三千までスキーハウスで試み

られた姿は今尚目に新たな

情景を見乍ら、うなつて居

られた姿は今尚目に新たな</p